

放送を巡る諸課題に関する検討会（第10回）議事要旨

1. 日時

平成28年7月22日（金）15時00分～16時00分

2. 場所

総務省7階 省議室

3. 出席者

（1）構成員

多賀谷座長、新美座長代理、岩浪構成員、大谷構成員、奥構成員、清原構成員、近藤構成員、宍戸構成員、鈴木構成員、竹ヶ原構成員、三尾構成員、三友構成員、三膳構成員

（2）オブザーバ

（一社）日本ケーブルテレビ連盟、日本放送協会、（一社）日本民間放送連盟

（3）総務省

高市総務大臣、松下総務副大臣、輿水大臣政務官、太田大臣補佐官、福岡総務審議官、山田大臣官房長、南情報流通行政局長、吉田官房審議官、齋藤情報流通行政局総務課長、鈴木同局放送政策課長、久恒同局放送技術課長、藤田同局地上放送課長、豊嶋同局情報通信作品振興課長、飯村同局衛星・地域放送課地域放送推進室長、藤波同局放送政策課企画官

4. 議事要旨

（1）高市総務大臣挨拶

開会にあたり高市総務大臣より挨拶が行われた。

（2）新構成員の紹介

多賀谷座長より、（株）日本政策投資銀行産業調査部長 川住構成員の異動に伴い、後任として竹ヶ原構成員が就任する旨の紹介があった。

（3）第一次取りまとめ案について

①第一次取りまとめ案の説明

新美座長代理（取りまとめ案起草委員会主査）から、第一次取りまとめ（案）について、資料に沿って説明が行われた。

<構成員の主な発言>

【岩浪構成員】

- ・ インターネットやモバイルネットワークを含む、いわゆるICTイノベーションは、万

人に開かれたフロンティアである。それは多くの産業と同様に放送業界も例外ではないはずで、今後は、新サービスの展開はもちろん、本業の放送においても活用されるべきものと考えている。この考えに繋がるビジョンを「はじめに」の中で書いていただいたことは大変ありがたい。

【奥構成員】

- ・ 放送事業者が、今後、既存のパイを拡大できるか、サービスの提供のためのルール作りができるか、この点をしっかり書いていただいていることがよい。特に、若者のテレビ離れや、モバイルネットワークへの親和性は気になることであり、これらも含め包括的に議論できるような取りまとめ案としていただいた。

【清原構成員】

- ・ 取りまとめ案の中で特に重要と感じるのは、基本的な考え方として「視聴者視点」で課題を解決することが明記されていることである。
- ・ 自治体の立場からは、「地域に必要な情報流通の確保」として、明確に「地域」の視点を入れていただいたことはありがたく思う。また、日本の放送コンテンツや、地域性を踏まえた情報の価値についても再評価されていることがよいと思う。
- ・ 「新たな時代の公共放送」の中で、「ガバナンス」というキーワードが明確に示されている点を評価したい。インターネットの普及という新たな時代の中でのNHKの在り方について、「今後も継続的に検討する必要がある」とされており、その点は期待したい。

【近藤構成員】

- ・ ICTの技術革新や第4次産業革命について冒頭で触れられており、放送と通信の未来に前向きですばらしい報告である。
- ・ 高齢者向けのスマートフォン、タブレット端末講習会では、ラジオ・テレビを楽しむアプリが大人気であり、ワンセグ機能のあるAndroid端末を選ぶ理由にもなっているが、格安スマホではワンセグのない機種が多くて残念である。スマホを買ってはみたが、使いこなせず、以前のように携帯電話のお店で教えてもらえないため、困っている高齢者が多い。皆が楽しめるように企業や自治体と連携しながらボランティアとして利用支援活動を続けていきたい。

【鈴木構成員】

- ・ 放送が果たしてきた役割は普遍であり、それを今後も伸ばしていかなければならない。そのような視点から報告書がまとまっている点を評価している。
- ・ 今後は、地域情報の文脈で更なる検討を進めるものと理解しているが、FMチューナー、ワンセグチューナーがないスマートフォンも少なくないことから、非常時のようにインターネットが混み合っている現状においても、いかにスマートフォンユーザーに放送を届けるのかといった問題について、しっかり検討していく必要がある。また、インターネット経由の放送コンテンツ配信と放送とでは、一見同じようでも、異なる法的規律の下にある。この点を検討することに言及したことも高く評価したい。
- ・ 今後、放送事業者が生き残り、放送の意義を生かしていくには、前回会合で座長も言われていたように通信をこれまでの通信事業者と違う形で上手に利用することが重要であ

り、能動的、積極的な対応をすべきであるとの趣旨がどこかに入っているかもしれない。

【竹ヶ原構成員】

- ・ 収益と公益のバランスをとるというフレームワークについての記述が印象に残った。以前、企業の非財務価値を評価する仕事をしてきたが、地域のCATV事業者のBCM（注：事業継続管理）に感激したことがある。地域のレジリエンスを高める機能の大きな部分を放送事業者が担っていた。こうした価値を見える化し、収益性とのバランスを取っていくことが今後の課題だと思う。

【三尾構成員】

- ・ 視聴者視点であることと、2020年以降の様々な課題の洗い出しを行ったことで、放送はどうあるべきか、幅広い課題の提示になっていると思う。官民それぞれのあるべき姿、役割を総合的に提示していると思われるが、どこまでが官で、どこまでが民で行うべきかがすみわけが実は難しい。しかしながら、2020年までさほど時間がない中、スピード感をもって課題に対応していかなければいけない。
- ・ また、今回NHKについて、様々な課題、NHKが持つ役割、責務について議論されたことは評価すべき。公共放送としてのNHKの存在は、今後の放送を巡る課題解決に向けてキーになる。官でも民でもない立場として、これからの課題を大きく引っ張っていく存在ではないか。そういった意味でもNHKにはさらに透明性を深めていただき、国民の信頼を得たうえで積極的な役割を担っていただきたい。

【三友構成員】

- ・ 国内の視点だけではなく、日本の政策の国際的なプレゼンスを放送によって高めることを目指すべき。放送自体は国内的イシューだが、世界的にも同じような課題を抱えている。
- ・ 現在、放送を通じた新しい価値の創造、イノベーションが起こっていると考えてよい。ネットワークが発展している我が国だからこそ、政策の先進性が示されれば、政策のプレゼンスを世界的にも高めることができると思う。反対に内向きの議論で、利害調整に終始すると、逆効果になるため注視しないといけない。
- ・ 政策として放送のイノベーションを意識して、将来のビジョンを実現するために、政策的な処方箋を提案し実行していただきたい。

【三膳構成員】

- ・ 本検討会の初回にビジネスとしてのマルチメディア、フィロソフィーとしてのジャーナリズム、システムとしてのブロードキャスト、インターフェースとしてのテレビ、これらが一体となった放送というものがICTで変化していくこと、ユーザーが放送として認識するものと、制度やシステムが放送として扱うもののギャップが大きくなってきているという認識を共有できればよい、という話をした。その第一歩がまとまったということで少しは貢献できたと思う。
- ・ ユーザーは放送でも通信でも気にせず、必要な情報が手に入ればよいと考えている。それをメカニズムとして担保するために、社会的な制度として合意を得られるところまでっていくことは大変なこと。そのことを明文化できたことはよかった。

【大谷構成員】

- ・ プロフェッショナルのサービスの価値が相対的に低下するという、インターネット時代の特性を実感している。放送分野でも、番組制作のプロの提供するものの価値が、数多くの動画サービスの中で相対的に低下する傾向にあるという課題があると思う。専門家としてサービスの価値を高め、適切に伝えていく努力をすべきであり、その際の視点として視聴者利益の保護がキーワードになる。
- ・ インターネットカルチャーには良い部分が多くあるが、きめ細かくパーソナライズされて、購買行動につながる一方で、個人の嗜好におもねる情報発信がされ、それに視聴者が踊らされるという面もある。それは目指すべき視聴者像ではない。放送文化が長年育んできた視聴者行動の持続性を2020年以降もつなげるために、どのような視聴者像を描きながら、放送の在り方を考えるのが重要な視点になる。特に受信料で支えられている公共放送においては、その問題が端的に現れる。
- ・ 第一次取りまとめ案のp38のVFMについて、一般的な用語で脚注を入れていただいているが、内閣府のガイドラインは、PFI事業を念頭においているため、NHKの計算方法と多少の違いがある。誤解が生じないように、分かりやすく記載してほしい。

②その他

本会合での意見も踏まえて「第一次取りまとめ案」とし、この取扱いについては、座長に一任することです承された。また、今後約1ヶ月間、パブリックコメントを実施することとなった。

(以上)